

## 論文審査の結果の要旨

氏名：森 岡 久 尚

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：我が国の青少年の睡眠障害と飲酒の関連についての疫学的研究

審査委員：（主査） 教授 内 山 真

（副査） 教授 根 東 義 明 教授 高 橋 昌 里

教授 越 永 従 道

本論文は、全国から無作為に抽出された 131 の中学校と 113 の高等学校の生徒を対象とし、質問票による調査から当該年齢層の睡眠障害と飲酒習慣の頻度を明らかにしたものである。さらに睡眠障害と飲酒習慣との関係について層別化し、最終的に多重ロジスティック回帰分析を用いて、各種の睡眠障害と 1 週間の飲酒回数と 1 回の飲酒量について、人口統計学的要因、生活習慣、精神的問題の有無などの交絡要因を調整したうえで検討した。98,867 名（有効回答率 63.7%）から得られたデータを解析した。1 か月間の睡眠障害の各症状の有訴者率については、自覚的睡眠不足（SIS）が 38.2%（男子：37.6%、女子 38.7%）、短睡眠時間（SSD）が 30.6%（男子：28.0%、女子 33.0%）、入眠障害（DIS）が 13.3%（男子：12.5%、女子 14.1%）、途中覚醒（DMS）が 10.5%（男子：10.1%、女子 10.9%）、早朝覚醒（EMA）が 5.1%（男子：5.1%、女子 5.0%）であった。DIS、DMS、EMA のうちいずれかひとつ以上ありを不眠症と定義したところ、その割合は 21.5%（男子：20.8%、女子 22.1%）であった。飲酒回数については、週に 1 回以上は男性で約 3.9%、女性で約 2.7%であった。1 回の飲酒量 1 杯以上が男性で約 21.0%、女性で約 20.2%であった。多重ロジスティック回帰分析の結果、SIS、EMA を除く睡眠障害の各症状（SSD、DIS、DMS）について、1 週間の飲酒回数と 1 回の飲酒量との間で正の関連が見られた。我が国の中高生を対象とした大規模疫学研究によって、我が国の多くの中高生が睡眠障害の症状を有しており、飲酒頻度および 1 回の飲酒量と睡眠障害の症状の頻度が独立して正の関連を持つことが初めて明らかにされた。

予備審査の結果、審査委員から、いくつか追加説明や追加記述の必要な点が指摘され、これに基づいて書き直しが行われた。

本論文は、適切な手法でサンプリングされた中学校および高等学校の生徒を対象にした大規模集団の疫学研究であり、健康教育や保健指導に有用なエビデンスを提供するものである。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成 26 年 2 月 19 日